

第1学年\*組 保健体育科学習指導案

指導者 鈴木 奈身

1 単元名 球技「ゴール型（バスケットボール）」

2 単元で育成する資質・能力

- 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防することができるようにすること。  
(知識及び技能)
- 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにすること。  
(思考力, 判断力, 表現力等)
- 学習に自主的に取り組み、作戦などについての話合いに貢献することができるようにする。また、一人一人の違いに応じたプレーなどを大切にし、互いに助け合い教え合おうとすることや、健康・安全を確保することができるようにすること。  
(学びに向かう力, 人間性等)

3 単元の評価規準（学習活動に即した評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知①運動の特性や学習の進め方を理解している。 知②ゴール前に広い空間を作り出す方法を理解している。	技①パス, シュートなどのボール操作ができる。 技②ゴール前へ移動したり, 駆け込んだりすることができる。	①ボール操作やボールを持たない動きのポイントを見付け, 仲間に伝えている。 ②自己やチームの課題を発見し, 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。 ③自己や仲間の課題やチームの作戦などを考え, 伝えている。
		①学習に自主的に取り組もうとしている。 ②作戦などについての話合いに貢献しようとしている。 ③互いに助け合い教え合おうとしている。

4 単元の指導について

(1) 教材について

バスケットボールはゴール型の球技で、それぞれ5人の競技者からなる二つのチームがお互いにボールを奪い合い、得点を競うスポーツである。高等学校では、これまでの学習を踏まえて、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多

様な楽しさや喜びを味わいながら、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することなどが求められる。

本単元では、単元を通してドリルゲームやタスクゲーム、メインゲームを取り入れ、安定したボール操作と空間を作り出す動きの習得を目指していく。また、作戦を考えたり、話し合ったりしながら伝え合う活動を取り入れ、学習を進めていく。単元を通して資質・能力のつながりを意識した指導計画の見直しと、生徒の実態を踏まえた学習場面の工夫を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、学習で身に付けた知識や技能を活用して学習課題への取組を工夫したり、自己や仲間の課題の発見や解決に向けて考えたりしたことを他者にわかりやすく伝えられるようにするなどの資質・能力を育てる学習指導の在り方を究明していく。

(2) 生徒の実態について

本学級は、明るく素直な生徒が多く、落ち着いた態度で授業に臨むことができる。しかし、体育の授業に対しての意欲関心や生徒の運動能力は二極化している。図1は、本単元の事前に行った体育授業に関する意識調査の結果である。ほとんどの項目で「よくあてはまる」や「あてはまる」と回答している生徒が多いが、項目6の「体育・保健体育の授業において、課題の発見・解決に向けて、自分の考えを友達に伝えることができますか」では、「あまりあてはまらない」に回答している生徒が21人であった。このことは、これまでの体育授業において、自己や仲間の課題の発見や解決に向けて考えたり、他者にわかりやすく伝えたりする場面の設定が不十分であったからだと考えられる。また、項目8の「保健体育の授業で、できなかったことができるようになったきっかけは何ですか」では、「友達に教えてもらった」と回答している生徒が28人と最も多く、「授業中に自分の動きを撮影して動画を見た」と回答している生徒はいなかった。

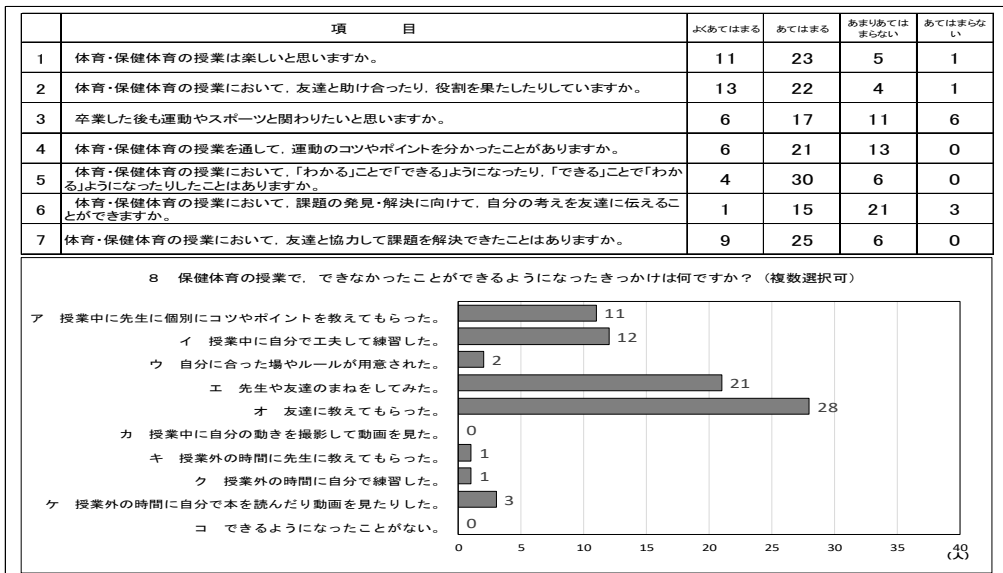


図1 体育授業に関する意識調査（令和元年9月3日実施，第1学年\*\*人）

5 単元の指導計画（10時間扱い）

別紙資料参照

